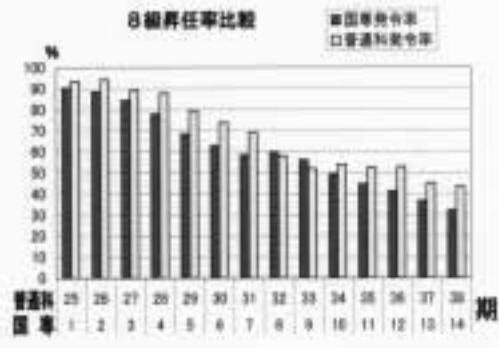
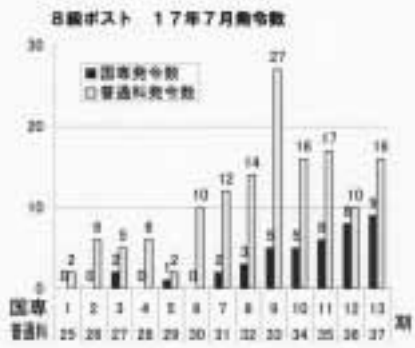


数字で迫る岡田委員長



全国税

発行所 東京都千代田区霞ヶ関 財務ビル内(〒100-0013) 全国税労働組合 発行人 岡田 俊明 電話(03)3581-3678 FAX(03)3507-0886 振替口座 00140-2-68514

「非常識追放」110番 zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場からセクハラやイジメなどの非常識をなくすため、「非常識追放」を常時設置して「非常識追放」の番号までどうぞ。

全国税ホームページ http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

ポスト発令 国専格差を指摘

全国税は9月27日、木村新長官と1回目の交渉を行いました。新長官としての新機軸はこの段階では示されず、大武前長官の路線引継ぎを印象づけました。一方で、全国税の意見をあげて欲しいと数回発言したり、仕事や処遇で大変化を強いる施策で、当局ルートでは長官にあがってこない事実や職場の声を把握したいという対応が見られました。

当局 調査を約束

全国税 最大の問題は中高年職員に対する処遇の後退・停滞の解決。長官が、中高年上層層の問題を棚上げにしたまま切捨てに向かうことを危惧している。職員の士気にかかわる問題であり、切捨てはしないこと、誰もが定年までに8級に到達できることを目標に努力を続けることを、長官として明確に言明せよ。

長官 中高年職員は、職場に大きく寄与してきた。士気を維持していくことは大事だ。中高年を含む全体の処遇の維持・改善に努力している。

昇格は、よく職責を果たした職員に対し適正に実施しているところである。「退職までには8級」を約束することはできない。「努力」という

「切り捨てる」ということは「ない」ということを聞いています。長官 査定当局の姿勢は厳しい。8級ポスト拡大で最大限努力していく。

全国税 中高年職員の処遇停滞は平成22年がピークとなる。向こう5年間で「難しい・あきらめてくれ」といつてほしい。長官 よい知恵があればいつてもらいたい。いま

具体的案があるわけではないが、ポスト増設に努力していく。全国税 我々の調査では、国税専門官試験採用者のポスト発令が普通科に比べ低い(上掲グラフを示す)。また、45歳以上の発令結果を見ると、ある一定の年齢以上は国専を発令しないという、何か特別の取り扱いがあるように見える。

人事課長 はい。全国税 グラフを見せても

人事院勧告があった。その内容は容認できない。実施されると職員の給与水準が引き下げられ生活を圧迫する。来年4月からの俸給表切り替えは「50年ぶり」の改革である。勧告が実施されると少なくとも5年間は昇給しない。これは、「昇給停止措置」と同じ結果で終わる。これは、

結果で終わる。これは、

らったが、人事の結果がこうなっていたら、人事は基本に則って行っている。全国税 個別の結果の集合体という側面もあるが、無意識のうちに行っていたのであれば問題あるし、意識して行っていたのであればもつと問題がある。

人事課長 ご指摘については承るが、人事の基本に則って行っている結果である。

全国税 国専は採用時は普通科より上位だが、その後を見ると国専への発令が普通科と比べても低い。なぜか根拠を示してほしい。

長官 国専は創設当初と違い、採用数も増え、職場環境も変わり、国専が職場の中心を担っている。士気を保たなければならぬ。今のところは、人事の基本に則った結果としかいいようがない。全国税 きちんと調査せよ。

人事課長 はい。

税務職員は、全国同一レベルで統一性と透明性を発揮することが求められ、日々努力している。

これを勤務地において給与が異なるというのは問題だ。長官は政府に対して実施すべきでないことを求

めるべきだ。長官 給与構造の改革は大きな関心事だと承知している。職場を預るもの

務の複雑・困難、専門性ある職務執行等の事情を説明した。その中で一定の成果が

人勧が出されているので、意見を申し上げる立場にないが、今後とも税務職員の処遇改善に最大限の

努力をしていきたい。全国税 勧告が実施された場合、配転など当局の人事運用に大きな影響が

ない方もあり、負担の少ない職務を希望する人には適正な職責に配置した方がいいと個別に判断したと考える。

全国税 「親心」のように聞こえるが、本人の苦痛を考えれば問題だ。中には「今後昇任・昇格を希望しない」とまで書かされているという。これはやりすぎだ。

長官 「あなたかみのある人事・ない人事」というのはよくわからない。本人の希望にそぐわないこともあれば適正に行われている。ただ「非人道的な人事は、やってはいけない」と考える。

「国民の目が厳しい」 降格・懲罰への傾斜理由?

全国税 「降格人事」が昨年よりも増加している。勤勉手当の低率支給、昇給延滞、昇格の最終決着後退が全国的に共通している。庁の人事政策と見て取れるし、いわば「脅しの人事」に転換したのではないかと。これらは国税庁の政策と考えるが長官の真意はなにか。

長官 降格、ボーナスの低率、定期昇給未発令の話は(全国税の)新聞でみた。勤勉手当の支給方法、昇格については国公法に基づき適正に実施している。

全国税 違法とはいってない。低率支給や定昇見送りに対して「職責を果たしてない」という説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの

説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの

説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの

説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの

説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの

説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの

説明が画一的に行われている。低率支給では本人に説明もない。事実上の処分だ。昨年、大阪局では、「下を向いてうつむいて歩いている」などの



頼りになるか? 木村新長官

説明で昇給延滞。その後昇給発令されたが、今年6月は勤勉手当が低率だった。報復人事ではないか。見直しを求め。今回降格された人の中には、心の病と闘っている。復数の職員が含まれている。「がんばって」病気になる人に、がんばりが足りないかと降格を迫るのは人道的にも問題がある。病への対応として誤っている。

やり方でも、一筆を書かせているが、本人にはつらい作業と想像する。本人希望という形で不服申し立ての道を塞いでいる。プライドを踏みしめる人間の尊厳や人権を蹂躪した人事がまかり通ることはあってはならない。

人事課長 各局に降格の数字を割り振ったわけでもないし、今後もやる気もない。しかし、公務員に対する国民の目が厳しくなっている。

全国税 やりすぎである。

長官 公務員に対する国民の目が厳しくなっているのは事実で、きちんと行わなければならない。全国税 やりすぎである。

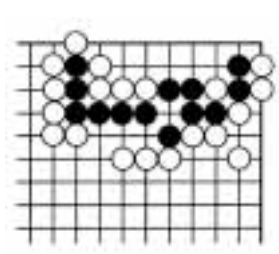
最悪人勧でも意見いわない

人事院勧告があった。その内容は容認できない。実施されると職員の給与水準が引き下げられ生活を圧迫する。来年4月からの俸給表切り替えは「50年ぶり」の改革である。勧告が実施されると少なくとも5年間は昇給しない。これは、「昇給停止措置」と同じ結果で終わる。これは、

詰碁

出題 九段 石樽郁郎

黒先 ヒント 一手目の好手で、無条件生きにします。(七分で二、三段以上)



背任罪と「魔の金曜日」

脅しと禁止では解決しない

全国税 徴収部門では異常な尻叩きが横行しており、人事政策がこれに関係していることは問題だ。

札幌局で、この夏われわれが問題にして職場の大きな支持を受けた。課税二部と徴収部との人事交流、それもトップの交流が行われるという

長官 消費税は免税点引き下げで申告件数が跳ね上がり、少額滞納が増える。益税問題もあり期限内収納、振替納税などへ

全国税 7月に公表される

の対応が必要である。滞り、納税生縮減に努力するの最大の課題と考える。

ノルマ主義という話だが、同署の実情に配慮し、弾力的に運用するよう指示している。徴収については、国民の権利義務に開く公権力の行使と認識している。

全国税 7月に公表される

た千葉の事件の背景には、尻たたき、数字を追う仕事のやらせ方がある。背任罪で送検され、仕事をやりすぎるとまづいという話になりかねない。職員の不安心を払拭し、件数を走らせない仕事のさせ方が重要だ。

名古屋のかばん紛失事件では、3年連続で人事

異動後の7月第3金曜日に同様の事件が起きており「魔の金曜日」といわれている。あれだけ持ち出しを戒めても起きるのは、異動直後に追い立てられる中で、仕事をもち帰って、結果としてなくすことがあるのではないか。事件を起こした人も問題だが、仕事のさせ方こそ問題がある。持ち帰りは禁止しておいて、持ち帰りをせざるを得ない仕事をさせている。

長官 「魔の金曜日」というのが、基本的に持つて帰ることは認めていない。持ち帰る場合は新たな

問題になる。仕事をやらせて背任罪というのは怖いという意味だが、告訴はまずいのではないか。

長官 不祥事に対する対処、受身の話で告訴をしたということである。

そ重大な問題であると思う。マネジメント能力の問題だ。

全国税 「全件入力」対策を聞きたい。

長官 何が大変かを皆さんから聞きたい。会議で聞いた限りでは、省力化し楽になると考える。

全国税 日曜開庁をやめる決断はしないのか。

長官 やらないという決断はしない。事務負担や健康に配慮して実施する。建設的な意見は窓口へ言ってもらいたい。

全国税 40年間、差別で

後努力していく。超勤手当については実態に即して適正に支給しているところであり今後は適正に支給していきたい。

会計課長 公用車の削減は定年退職を考慮して積算。職員の減少に応じていく。

生首はとばさない。

全国税 交換手についてはどうなるか。

長官 コールセンターの活用はIP電話で行っている。温みが伝わることになる。



署幹部だけ問題？

誤った労務政策 転換迫る

全国税 組合差別政策は撤廃すべきではないか。

長官 特定の職員団体を否定したり、正当な職員団体の活動に介入したこともないし、するつもりもない。

全国税 多くの人材を処遇しなかつたツケは大きすぎる。全国税への打撃が目的だ。「差別はしないし、するつもりもない」というなら、見直すべきだ。

長官 広域は経済的現実がある。徴収職員の話は聞いている。しかし、広域の大変さと必要性を同時に感じており、やる必要がある。

全国税 統括官の問題も、すべて管理業務というのは今でも違うと思う。外にやることも必要だ。

全国税 試行はそれをやりたいたいことか。試行の成功のために、「失敗は許されない」と無理が強い。

内部事務を機械化とアウトソーシングで回せると考えていたら滑稽なことになる。管理の定員削減は、「管理は減らさない」という約束(村上前次長が人事課長時の団交回答)違反だ。

「巡回」に固執する署幹部 「マネジメント能力の問題」



巡回は大問題！ 山口副委員長・阿部書記長(右)

全国税 来年の確定申告は、申告者の増加が確定である。長官は確定申告をどのようにやるかとしているのか。

中心問題は、人手不足による超勤問題だ。また、各局で「リピーターをつくるな」といわれている。「税務署にこんな」が真意か。

長官 前長官から話を聞いた。申告者数の増加は大問題だ。一方で定員削減は、頭のいたい問題。リピーター問題も含め、メリハリどうつけるか、予算や人員をどう配分するか。納税者には自書申告をやらせてもらうしかない。ホームページなども活用して、署に来なくてもよい方策を考えている。ただし、来署した人には全部対応する。

全国税 巡回指導はどうか考えているのか。本格導入しているが。

長官 来年も、原則は

巡回指導を基本に集合指導を実施する。

全国税 立ちっぱなしは異常だ。職員の健康はどうなる。立ちっぱなしはしないという約束できないか。交替制と休憩用椅子の配置だけでは限界がある。

総務課長 一律に巡回指導を求めている。何が

一番良いか、署内で協議し決めてほしい。健康管理は原則は交替制とし、休憩用の椅子を用意するよう指示している。

全国税 椅子には勇気がないと座れない状況だ。外部会場での交替員をどうするのか。立ちっぱなしについて、手を打つべきで、基本的に人の問

問題と考える。

長官 各局署の実情に合わせて考えてほしい。国税庁が何かいえば、「ワ」とやる、各局署が右側。建設的な意見は窓口へ言ってもらいたい。

全国税 日曜開庁をやめる決断はしないのか。

長官 やらないという決断はしない。事務負担や健康に配慮して実施する。建設的な意見は窓口へ言ってもらいたい。

全国税 組合差別政策は撤廃すべきではないか。

長官 特定の職員団体を否定したり、正当な職員団体の活動に介入したこともないし、するつもりもない。

全国税 多くの人材を処遇しなかつたツケは大きすぎる。全国税への打撃が目的だ。「差別はしないし、するつもりもない」というなら、見直すべきだ。

長官 広域は経済的現実がある。徴収職員の話は聞いている。しかし、広域の大変さと必要性を同時に感じており、やる必要がある。

全国税 統括官の問題も、すべて管理業務というのは今でも違うと思う。外にやることも必要だ。

全国税 試行はそれをやりたいたいことか。試行の成功のために、「失敗は許されない」と無理が強い。

内部事務を機械化とアウトソーシングで回せると考えていたら滑稽なことになる。管理の定員削減は、「管理は減らさない」という約束(村上前次長が人事課長時の団交回答)違反だ。

最適化 業務見直し

試行の状況伝わっていない！

全国税 質問書への回答では、具体的内容が示されていない。計画策定について、事前に労働組合と協議が必要である。

長官 適切に周知したいし、建設的意見があればご意見をいただきたい。

全国税 税目別から機能別に再編という。全体像

が見えなければ意見をいえない。少なくとも長年のキャリアを無にしないようにしてもらいたい。

長官 具体的には？仕事をやるのは職員だ。時間をかけてもよいので聞かせてほしい。

全国税 一元化で管理の職員も、全税目の簡易な

相談につかされる。ペテランでも、税金の相談となると一年生。それが一元化の試行で起きている。管理で積み重ねた経験が無にされている。調査でも個人課税の調査官が一回だけの同行で、その後は一人で法人の調査を分担。個人と法

人の調査は別ものだ。

長官 素人が出て行っていいか考える必要があるが、内部事務は増える一方で実調率が下がる。どう対応していくかという問題だ。

全国税 統括官の管理業務取上げはやめるべきだ。広域運営を拡大しないこと。地方局では、月曜日から金曜日まで家に帰れない状態だ。

長官 広域は経済的現実がある。徴収職員の話は聞いている。しかし、広域の大変さと必要性を同時に感じており、やる必要がある。

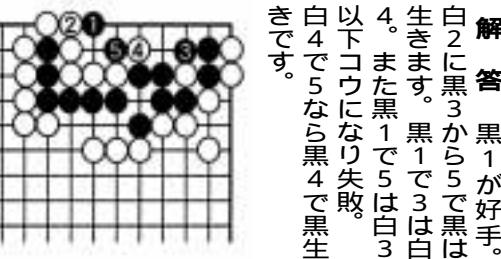
全国税 統括官の問題も、すべて管理業務というのは今でも違うと思う。外にやることも必要だ。

全国税 試行はそれをやりたいたいことか。試行の成功のために、「失敗は許されない」と無理が強い。

敗は許されない」と無理が強い。

内部事務を機械化とアウトソーシングで回せると考えていたら滑稽なことになる。管理の定員削減は、「管理は減らさない」という約束(村上前次長が人事課長時の団交回答)違反だ。

詰碁



解答 黒1が好手。白2に黒3から5で黒は生きます。黒1で3は白4。また黒1で5は白3以下コウになり失敗。白4で5なら黒4で黒生きます。